

櫻田、部屋から出てくる
乃木、櫻田の動向を気にしているのを悟られまいと平然としている
櫻田、乃木の向かいに座り、ノートパソコンを広げる

乃木 「え」

櫻田 「んんん（パソコンを開いて作業をする）」

乃木 「ちょっと」

櫻田 「（手を止めて）何」

乃木 「ここで仕事はやめてくださいよ」

櫻田 「……」

乃木 「ここにはいないってわかったでしょ」

櫻田 「……今は、な」

乃木 「……」

櫻田 「（周りをキョロキョロと見まわしながらタイピング）」

乃木 「え、居座るつもりっすか」

櫻田 「報告のメールだけ打たせてちょうだい」

乃木 「……」

櫻田 「（ターンと、キーを打つ）送信っと。（PCを閉じて）はい終了」

乃木 「（椅子から立ち上がって）じゃ、ご苦労様です」

乃木、櫻田に帰るように促す

櫻田 「……（座ったまま）少しだけ話いい？」

櫻田、乃木に座るように促す

乃木、首を振る

乃木 「……もう夜勤すから。そろそろ」

櫻田 「ゾンビウイルス甘く見るんじゃないよ」

乃木 「別にゾンビがデマだなんて思ってないですよ」

櫻田 「クラブ・フォーティーシックス常連客は8割やられてる。三坂道子が何回か行ってたことは間違いない」

乃木 「だから、道子とはなんもないすから」

櫻田 「……接触したら、自分だって、感染する可能性があるよ」

乃木 「会ってないし」

櫻田 「……嘘だったら、（手錠のゼスチャー）これよ」

乃木 「……会ってない」
櫻田 「……」

櫻田、立ちあがる

櫻田 「ま。そうだよな」

乃木 「(ため息)」

櫻田 「ツイッターは一方的にフォロー、インスタ、フェイスブックは交流なし」

乃木 「は？」

櫻田 「いや。SNS見る限りあんたは彼氏じゃねーなって、わかってただけどね」

乃木 「勝手に人のSNS、チェックしないでくださいよ」

櫻田 「(スマホ見ながら) 三坂道子のアプリ位置情報だとこの辺のはずなんだよな」

乃木 「……それ合法なんですか」

櫻田 「(軽くため息をついて) 失礼した。じゃ、櫛ひなた当たるか」

乃木 「ひなた？」

櫻田 「あ、知ってる？彼」

乃木 「……いや」

櫻田 「……それじゃ」

櫻田、部屋を出ようとする

乃木 「いやちょっと待って」

櫻田 「ん？」

乃木 「なんで？」

櫻田 「なに？」

乃木 「なんでひなたが出てくるんすか」

櫻田 「櫛ひなた？」

乃木 「(頷く)」

櫻田 「知ってるの？」

乃木 「……いや」

櫻田 「……一週間前に会ってるんだよね」

乃木 「……え？道子と？」

櫻田 「……」

乃木 「そんなわけないでしょ！」

櫻田 「なんだよ」

乃木 「元カレだろ？めっちゃ浮気して道子泣かせてたやつですよ」

作成者 大京寺亮

櫻田 「結構最近のインスタにも映ったりしてるけど」
乃木 「そんなわけない！連絡先消させたし、ついこの前だって、ひなたがインスタフォローしてきたの消させたから。会ってるわけない」
櫻田 「……」
乃木 「あ」
櫻田 「……」
乃木 「……昔の話ですよ」
櫻田 「……」
乃木 「……（椅子に座る）」
櫻田 「いいかい？」
乃木 「……」
櫻田 「三坂道子は、あんたが思ってるよりも、感染してる可能性、高いよ」
乃木 「うるさい！」
櫻田 「どんな状態なんだ、今」
乃木 「……だから、知らないって」
櫻田 「発症したら手遅れなんだぞ」
乃木 「……」
櫻田 「対策室くれば、治療薬あるから。今は投薬が早ければ完治する」
乃木 「……」
櫻田 「今検査受けさせるなら、逮捕も罰則もない。約束する」
乃木 「……」
櫻田 「ここに、いるね？」
乃木 「……」